

集決、約、續、に、會、持、持、す

本報人の口述報告の趣意は、

一九三五年七月、提議者として「開東沖」の提議者として、

上野園、提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

（一九三五年七月）「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

提議者として「開東沖」の提議者として、

本報人の口述報告の趣意は、

発刊物紹介
私産の堂
「あだん」各巻集約版
「開東沖」各巻集約版

# 「ゆうなの会」幹部らの「姫百合斗争」への敵対を許すな!!

## 皇太子糾弾斗争は無意味か?

与那国、高良、島添、本村の「ゆうな  
の会」幹部らの本質は何か?

沖繩出身者のレクレーション団体であ  
る「ゆうなの会」は、会長の与那国君を  
はじめ政治活動家たちによって組織され  
運営されている。

この会が後から「ゆうなの会」幹部らは、  
七月十七日午後八時とする皇太子糾弾  
上陸阻止斗争、とりわけ姫百合境内から  
の火炎ビン糾弾斗争に対し「意味をな  
ない」「ナンセンス」「ナンセンス」  
等々、大ぜいの仲間たちを前に暴言を  
吐き続け、あの斗いを心ある人々から誹  
謗中傷により、一断し孤立化させ封殺せ  
んとしている。姫百合斗争を否定し、一  
体彼ら「ゆうなの会」幹部らは何の為に  
沖繩の文化を守り、沖繩人の団結を主張  
するのだろうか?

八月十四日、裁判中の沖繩三青年の君  
し君を支持し斗争を繰り広げている「沖  
繩差別と闘い、沖繩人の連帯を克ち取る  
会」会合で私たちは、「沖繩青年の会」の  
太子糾弾斗争を支持し、今後獄中にい  
まれている彼らを支援しながら沖繩差別

斗って行くのではないかと、皇太子  
糾弾上陸阻止、戦犯天皇糾弾斗争を支  
持する会への参加をよびかけた。こ  
ころが同席していた「ゆうなの会」幹  
部の高良新吉と島添らは正面から反対  
してきた。彼らは「姫百合の斗いは全  
く意味がない」と発言を連発し、会合  
に参加していた多くの仲間を前に、皇  
太子糾弾斗争の斗いの意義を否定し、  
封殺せんとしてきたのである。私たち  
はそれに対しても、沖繩で固面でもし  
て固面で沖繩同三青年らの「姫百合・  
白銀の斗い」の衝動がどういうもので  
あり、この斗いを支援した皇太子糾弾  
て行く「一支持する会」の結成へ向  
け、ごん方に多くの人々が呼びかけら  
れ、あるいは賛同者として結集しつつある  
かを具体的に報告した。しかし高良、  
島添らは「池袋城グループがやったか  
ら、あの斗いは意味がない」とくり返  
し、全くセクト利害を基にした対応に  
終始していた。

八月二日の日、続いて「克ち取る会」  
の会合が開かれた。そこで高良は十  
四日の私たち「支持する会」への呼び  
かけに反対し、私たちを「克ち取る会」  
から追いつくために、めったに「克ち取  
る会」に参加しない「ゆうなの会」を  
会長と那国君や本村、牧志ら十名近く  
の「緊急動員」させた。そして一  
人参加する事なく「あんなに「克ち取  
る会」は認めない」といふ事を持ち  
にも無原則、勝手放言の言葉の一部の  
人にとり、「克ち取る会」から追いつ  
脱退を求めた。

七月十七日はナンセンス、ナンセンス  
とを繰り返した。そして「ゆうな  
の会」に罵詈雑言を飛ばし幹部連中は、何  
が何でも沖繩同のセ、一七の歴史的  
斗いを孤立的に、足さび、ぱり、斗  
いの意義と成果が沖繩人同胞に届か  
り、発展するのを「ぶ」してしまおうと、  
「皇太子糾弾斗争」を「克ち取る  
会」は持ち込み「支持する会」への  
参加を、強硬に拒否した。そして池  
袋城グループの「克ち取る会」の  
除名要求しをかけた。しかし  
こんな事が通るはずはない。物事の  
セクト利害主義は、沖繩社会・沖繩  
人全体の利害を克ち取る事を捨ててし  
まっている。私たちはまずこの点を  
彼らに言いたい。

八月二日の日、続いて「克ち取る会」  
の会合が開かれた。そこで高良は十  
四日の私たち「支持する会」への呼び  
かけに反対し、私たちを「克ち取る会」  
から追いつくために、めったに「克ち取  
る会」に参加しない「ゆうなの会」を  
会長と那国君や本村、牧志ら十名近く  
の「緊急動員」させた。そして一  
人参加する事なく「あんなに「克ち取  
る会」は認めない」といふ事を持ち  
にも無原則、勝手放言の言葉の一部の  
人にとり、「克ち取る会」から追いつ  
脱退を求めた。

八月二日の日、続いて「克ち取る会」  
の会合が開かれた。そこで高良は十  
四日の私たち「支持する会」への呼び  
かけに反対し、私たちを「克ち取る会」  
から追いつくために、めったに「克ち取  
る会」に参加しない「ゆうなの会」を  
会長と那国君や本村、牧志ら十名近く  
の「緊急動員」させた。そして一  
人参加する事なく「あんなに「克ち取  
る会」は認めない」といふ事を持ち  
にも無原則、勝手放言の言葉の一部の  
人にとり、「克ち取る会」から追いつ  
脱退を求めた。

八月二日の日、続いて「克ち取る会」  
の会合が開かれた。そこで高良は十  
四日の私たち「支持する会」への呼び  
かけに反対し、私たちを「克ち取る会」  
から追いつくために、めったに「克ち取  
る会」に参加しない「ゆうなの会」を  
会長と那国君や本村、牧志ら十名近く  
の「緊急動員」させた。そして一  
人参加する事なく「あんなに「克ち取  
る会」は認めない」といふ事を持ち  
にも無原則、勝手放言の言葉の一部の  
人にとり、「克ち取る会」から追いつ  
脱退を求めた。

皇太子糾弾斗争への与那国、高良、  
島添、本村の政治利用主義者の敵対を  
追求し「ゆうなの会」より追放しよう  
皇太子糾弾斗争を  
断固支持し、支持しよう!!

「皇太子沖繩上陸阻止・戦犯天皇糾弾闘争を支持する会」

への呼びかけ

この八月十五日で、日本も戦後三十年を迎えた。戦後三十年を迎えるにあたって、われわれ日本人は八月十五日がはらち反戦の意味を改めて確認すると同時に、沖繩と沖繩の人びとの犠牲に思いをはせなければならぬ。

沖繩は一六〇九年以降、島津の支配下におかれ、奴隸的な隷属を強いられてきた。下つて一八七九年の琉球処分後は、国内植民地として、差別と抑圧にさらされた。そのあげくのはてが、沖繩戦であり、サンフランシスコ条約であり、七二年返還であつた。

沖繩戦では、本土防衛のために、罪のない沖繩人民が二〇万も殺害された。サンフランシスコ条約では、日本資本主義の復興のために、沖繩は米帝に切り売りされ、その米帝の軍事支配下で土地は奪われ、多くの人命が虫ケラのように失われた。そして、七二年返還では米軍基地にかたて加えて日本の自衛隊と公害産業がなだれを打つて沖繩に進出し、沖繩の人びとの生命と生活をおびやかしている。

とりわけ海洋博は「海—その望まじき未来」という美名にかくれて、沖繩の海と土地を沖繩の人びとの手から奪い、あまつさえ日本の資本と権力の延命のための産軍複合体が、その海洋博を起爆剤として構築されつつある。こうして返還後、沖繩で物価は急上昇し、自然は破壊され、農地を失つた農民や基地合理化で失業した軍労働者たちが、流民化しつつある。

これを要するに、沖繩の人びとは沖繩戦で踏まれ、サンフランシスコ条約で蹴られ、その上、七二年返還で煮え湯を吞まされたのである。こうした沖繩の現実の悲惨な進展について、いったい日本（本土）人民は無関係だつたといえるだろうか。むしろ、無関係ではない。沖繩の現実の悲惨な進展について、日本（本土）人民は大きな責任がある。

いったい、どれだけの日本（本土）人民が沖繩人民の声に耳を傾け、沖繩の現実を直視したといふのか。いったい、どれだけの日本（本土）人民が沖繩人民の闘いを自らの主体的な闘いとして闘ってきたといふのか。沖繩の悲惨な現実と、そこでの熾烈な沖繩人民の闘いをよそに、日本（本土）人民は、日帝本国の労働者として日帝のおこぼれにあずかりながら、声だけで「沖繩、沖繩」と叫んで自己満足をしてきたのではなかつたのか。

現在、沖繩人民は、海洋博をめぐる皇太子の訪沖によつて、天皇制の名の下に日帝の矛盾を転嫁された上、日本民族主義によつて融和されようとしている。皇太子訪沖は何をねらっているのか。日帝のアジア侵略の野望を美化し隠蔽すると同時に、沖繩人民をその日帝のアジア侵略の尖兵として狩り出すことをねらっている。だからこそ、沖繩戦の戦跡を夫妻でたずねて空涙を流し、そこを再び日帝の侵略の「聖地」にしようとするのである。

沖繩の人びとをなぞるのもホドがある。ことここにおいて、沖繩人民の怒りは爆発した。一九七五年七月十七日午後一時二十五分、沖繩本島南部戦跡のひめゆりの塔で、供花を終えて戦況の説明を聞く皇太子夫妻に、「ひめゆり部隊」一八八人がかつて自決した自然壕のなかから突然、姿をあらわした沖繩青年と戦闘的「本土」青年の二人の青年が火炎ビンと爆竹を投げつけて、日帝の走狗皇太子夫妻に糾弾の攻撃をかけた。

その時、数十人におよぶ警護のピストルの銃口は一斉に二人の青年に向けられた。死を恐れぬ決死の決起だつたのである。二人の青年は背にひめゆりの塔の遺骨を背負っていた。それより先、糸満市でも、ひめゆりの塔に向かう皇太子夫妻の車列に、白銀病院三階の窓からやはり沖繩青年と「本土」青年の二人の青年によつて火炎ビンが投げつけられていた。

沖繩解放同盟（準）二青年と「本土」二青年の四人が決起は何を意味するのか。差別と侵略の元凶として、戦前も戦後も変わることなく日帝の野望の推進役をつとめ、そしてその野望を隠蔽してきた天皇制を撃つことによつて、一六〇九年以降、四〇〇年になんなんとする沖繩の屈辱と隷属の歴史に、方向転換を与えたのである。

四人の青年の決起を境に、沖繩の歴史は自立と大義の方向に第一歩を踏み出し、そして帝国主義戦の「聖地」ひめゆりの塔は沖繩ばかりか、日本を含むアジアの人民解放の聖地に転化した。この新しい歩みが持続されるかぎり、やがて沖繩の地から、日米両帝国主義の醜悪な軍事基地と公害基地は叩き出され、新たな夜明けが沖繩を訪れるであろう。

この闘いは、沖繩人民のみならず、天皇制に反対する多くの日本（本土）人民の共感を、心の深みから大きく呼び起こした。われわれは天皇制に反対するもの一人として、この闘いを断固として支持するとともに、

この闘いの正当性を主張し、その正当性が権力によつて圧殺されることを未然に防止したいと考える。より多くの人が支持する会に結集し、最後まで闘い抜かれんことを、われわれは呼びかけずにおれない。

文責 北原 敏治  
新里 金福

### 呼びかけ人 (関東、アイウエオ順・八月二十八日現在)

新里 金福 (評論家)

岩 沢 吉井 (三里塚芝山連合空港反対同盟)

内 田 貫一 (三里塚芝山連合空港反対同盟)

大 島 幸夫 (ジャーナリスト)

北 原 敏治 (三里塚芝山連合空港反対同盟事務局長)

桑 田 博 (国士館民主化闘争・教授)

田 村 信征 (牧 師)

徳 永 五郎 (牧 師)

戸 村 一作 (三里塚芝山連合空港反対同盟委員長)

富 村 順一 (沖繩人)

藤 原 豊次郎 (医 師)

古 屋 能子

11月3日 海洋博  
日本ナショナルデー

# 上陸 皇太子才二次中絶阻止

◇ 9.30戦犯天皇ヒロヒトの訪米を阻止せよ ◇

皇太子才二次中絶阻止

白濁の口を赤痢の女に奪った。

海軍軍医長官(海軍)の野上、知念(防衛)那(中)出(身)米(米)

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

17日、海軍の口を赤痢の女に奪った。

白濁の口を赤痢の女に奪った。

